

# 組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名： **大学院医歯薬学総合研究センター 医学系  
医療教育統合開発センター**

部局長名： **谷本 光吾**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>自己評価</b>
<p><b>①-1 目標</b></p> <p>教育に関しては、医療系(医学部、医歯薬学総合研究科、医療教育統合開発センター、病院)は一体となり、各分野を超えて多様なニーズに対応できる医療人育成のキャリアパスを作成・実践することで、教育的課題の実現を図る。</p> <p>特にグローバル化に対応して、英語教育の充実を図る。</p> <p>医療教育統合開発センターを中心にシミュレーション教育の充実を図り、医療系教育の有機的・機能的な協力体制を進めることで、教育機器等の効果的な利用を促進させて育育機能の充実を図る。</p> <p>すべての大学院コースにおいて定員の充足を目指す。</p>	<p>中学生の職場体験、高大連携、医学部の臨床実技入門、シミュレーション実習、復職支援、ジェネラリストスキルアップセミナーなど、それぞれの段階におけるニーズに対応したコースを実施した。</p> <p>グローバル化に対応して、昨年度に続きシラバスの英語化を一層充実させるとともに、授業の配付資料の英語化を進めた。英語による授業の増加を図るべく、各教員に呼びかけを行い、日本語と英語の併用授業の試行などを通じて、課題の把握に努めた。</p> <p>保健学科や大学病院看護部でのシミュレーション実習、薬剤師を対象としたシミュレーション実習(Pharma sim)など多様なニーズに対応した実習を行い、シミュレーション教育の充実を図った。また、医療教育統合開発センターを中心にシミュレーションワーキンググループを開催し、情報交換を行うことで、教育機器などの効果的な利用を促進させた。シミュレーションセンターのシミュレーターの利用実績は、医療教育統合開発センターのHPに掲載し、利用促進を図った。</p>
<p><b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新入大学院生数および分子イメージングコース学生評価(学年進行中)。</li> <li>・英語による講義実施数。</li> <li>・医療教育統合開発センターの活動実績に係る数値(例えば年間の教育機器利用数など)</li> </ul>	<p>平成28年度の大学院入学状況は、博士課程定員128名のところ136名、修士課程定員20名のところ27名の入学手続きが完了し、課程としてはそれぞれ定員を充足したが、博士課程の1専攻において未充足(86%)となり、改善を要する。</p>
<b>②研究領域</b>	<b>自己評価</b>
<p><b>②-1 目標</b></p> <p>地域産学官共同研究拠点整備事業おかやまメディカルイノベーションセンター(OMIC)の運営を着実に進展させ、産学官連携の分子イメージングに基づいた研究を推進する。</p> <p>さらに研究者間情報交換の機会を広げるとともに、大型科研費及び外部資金の獲得のための研究開発委員会ヘッド会議を毎月開催し、資金獲得増を目指す。</p> <p>他の医療系(保健学研究科・環境生命科学研究科など)との研究交流をさらに活発化させ、医療工学系の枠組み作りにより主体的に取り組む。</p> <p>新たな研究シーズ開発について検討を行い、その臨床応用に向けての取り組みをさらに活性化させて、橋渡し研究加速ネットワーク事業に参画する。</p>	<p>OMICでの分子イメージング研究は、年間39件で、うち共用は20件、学外者によるものは5件であった。研究件数、共用数、学外利用数のいずれも昨年度を下回っており、改善を要する。</p> <p>科学研究費補助金の獲得状況は、平成27年度は前年度と比べて件数が若干低下しており、獲得増に向けて引き続き努力していきたい。寄付金の受入れについては、前年度と比べて件数は81件、金額は約6,500万円増加した。受託研究・共同研究は、30件、約9,300万円の増であった。</p> <p>医師主導治験は8件を実施した。</p> <p>新たな研究シーズ開発については、平成27年度の橋渡し研究加速ネットワークプログラム事業のシーズA(関連特許出願を目指す基礎研究開発課題)に42件の課題を申請し、29件が採択された。臨床応用に向けたシーズB、シーズCには、シーズBに31件を申請して3件採択、シーズCに5件申請して1件が採択された。</p>
<p><b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分子イメージング研究の医療系での実施数(入居件数、医歯薬学総合研究科・保健学研究科・病院での研究論文数の合算)。</li> <li>・科研費及び外部資金獲得額(医歯薬学総合研究科)。</li> <li>・研究シーズとして検討した数と臨床応用に向けた取り組み数。</li> <li>・橋渡し研究加速ネットワーク事業への申請研究数、採択研究数。</li> </ul>	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>自己評価</b>
<p><b>③-1 目標</b></p> <p>岡山県地域医療再生計画をさらに推進し、地域医療人育成センターおかやま(Muscat Cube)と共同して、地域医療人育成事業を継続して行う。</p> <p>地域枠学生の初期研修の実施と研修支援事業のさらなる充実を図る。</p> <p>学部、病院とも連携して、岡山市市民病院及び地域との医療連携・体制をさらに発展・確立させる。</p>	<p>岡山県地域医療再生計画(第二次)に基づき、地域医療を担う人材の育成に積極的に取り組んだ。地域医療人育成センターおかやま(Muscat Cube)と協働し、地域枠学生の卒業キャリアパスの構築を進めるとともに、地域医療を担う医師を地域で育てるためのワークショップの開催など、地域医療人育成事業を継続して行った。学生教育に関しては、200名あまりが必修の地域医療体験実習を行ったが、地域医療機関との連携を生かして十分な実習を行うことができた。</p> <p>平成27年度は、地域枠の第一期卒業生(1名)に対する岡山大学病院における初期研修を初めて実施した。研修開始前に、岡山県地域医療支援センター、岡山県担当課、岡山大学病院卒後臨床研修センター及び受入れ診療科の四者で、事前の打合せを行い、研修が円滑に実施されるように相互の調整を図った。また、卒業生4名のうちの3名は岡山市内の市中病院で研修を開始しており、同様に岡山県と連携して円滑な研修ができるようにした。平成28年度は、地域枠第二期卒業生5名のうち2名が岡山大学病院で初期研修を開始予定であり、さらにバックアップ体制を整える予定である。</p>
<p><b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療人育成事業による育成中の初期研修医数</li> <li>・復職医師数。</li> <li>・岡山市立市民病院との連携大学院事業への参加医師数</li> </ul>	<p>「岡山大学と岡山市との保健医療連携に関する協定」に基づく連携大学院「実践総合診療学」は、総合診療・地域医療・プライマリーケアを担う岡山市立市民病院の特性を活かした臨床を基盤に、岡山大学で研究を行うもの。大学での講義・演習に加えて、市民病院において客員教授の指導のもとに実践臨床診断学のレクチャーを受ける。平成26年4月の設置以降、平成26年度1名、平成27年度1名の学生が入学(受講)し、実践的な市民病院での臨床を行いながら、総合診療に関連する臨床研究を推進した。</p>
<b>【総括記述欄】</b>	
<p>平成27年度の組織目標は一部を除きほぼ達成できた。教育領域ではグローバル化に対応したシラバスの英語化と日英併用授業の試行に努めた。また研究領域では分子イメージング研究、科学研究費補助金の獲得額などで予定を下回ったものの、寄附金、共同研究や受託研究の受け入れや医師主導治験は順調に増加しており、研究シーズ開発についても最終年度に向けて新たな課題の採択をうけるなど進展がみられた。社会貢献領域では地域枠卒業生の初期研修環境を整備するなど地域行政と連携した取り組みを行い、次年度はさらにバックアップ体制を整備する予定である。</p>	